

大阪は「まち」がほんまにおもしろい

木津川に、飛行機が発着し自動車が円を描く

～高度36メートルのめがね橋を徒歩で、渡船で、バスで～

江戸時代、木津川は白砂青松の地であり、また諸国の廻船で賑わった大阪の港になりました。その水運の利を活かして、やがて工場が立ち並び、そして日本で最初の公共飛行場が生まれました。日本で最初の自動車工場もありました。そして、いま木津川に架かるめがね橋を、ひとが渡り、車が走ります。



① サンクス平尾商店街
 大正時代に沖縄から多くの移住者が大正区に住み始めました。沖縄経済が長期低迷するなかで、大阪の大正区に集まっている紡績や製鉄、木材製造などの新しい産業に職場を求めたからです。最初、沖縄の人たちは低湿地帯に集住していましたが、戦後の区画整理事業などを経て住居はしだいに分散しました。平尾地区には、比較的まだ多くの沖縄出身者が住居を構えているので「リトル沖縄」と呼ばれることもあります。サンクス平尾商店街はそんな沖縄の風を感じる商店街です。沖縄関連の商品が多く売られています。周辺には沖縄料理の店舗も多く、石敢當のある住宅も見かけます。

② 平尾公園
 江戸時代、このあたりの新田開発の多くは岡島嘉平次が開発許可を得て開発を始めたのですが、その一部を大坂江戸堀の平尾と左衛門が譲り受けて開発しました。それが平尾新田です。木津川では諸国の廻船が多く集まり、交易が盛んでした。このような水運の好条件を生かして近代産業が発達した大正年間にも、造船所が集中し、その数は50社を超えました。現在でも、木津川沿いに鉄鋼関係の企業が林立しています。

③ 大阪俘虜収容所碑
 第一次世界大戦の結果、中国にいたドイツ兵捕虜の収容所が日本各地に設置されたのですが、ここに「大阪俘虜収容所」が、大正3年(1914)に開設されました。それ以前は明治42年の大火で罹災した市民の収容施設などとして使われていたところで、俘虜収容所にはドイツ兵760人を収容しました。施設内では労働を課されることもなく、スポーツや趣味を楽しんだと言われています。兵士の楽団がベートーヴェンの「第九」を演奏したとか(映画そのものです)伝えられ、今でも日本とドイツの関係者の交流が持たれています。この碑がある亥開(いびらき)公園は、平尾と左衛門が亥年に開発したところを「亥開」と呼んだことに由来しています。

④ 南恩加島公園
 岡島嘉平次が開発した新田に自分の名前を換字して恩加島新田と名付けました。幕末の木津川における廻船の賑わい、ロシア船来港時の警護のようすが公園のパネルに示されています。

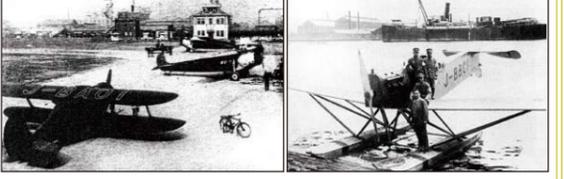
⑥ 千本松大橋
 木津川を跨ぐ千本松大橋は我が国で最初の「らせん橋」で、長さ323.5メートル、高さ36メートル、らせん高架部分は大正区側で452.4メートルです。昭和48年に完成しました。橋上からのながめは、東に広がる大阪市街地のビル群が夕陽を受けることが絶景と言われています。風が強いときが多く、注意して歩いてください。右岸の橋元には鉄スクラップを電気炉で溶かして鋼材を製造する大阪製鉄の本社と恩加島工場が、左岸には建築土木資材を製造する太平洋マテリアルの工場が見えます。



⑦ 千本松渡船
 この辺りは木津川の川尻に近く、江戸時代には北前船をはじめ諸国の船が盛んに入り出たところです。この堤防に植えられた松並木を「摂津名所図会大成」は「洋々たる蒼海に築出せし松原の風景は彼の名に高き天橋立、三保の松原なども外ならずと覚ゆ」としています。白砂青松の美しい浜だったのですね。大橋が完成しても渡しはいまでも利用されています。

⑧ 橋上から西を望むと新木津川大橋と木津川渡船
 大阪港の方向を望むと、木津川の河口に大きな橋が見えます。「テクノポート大阪」計画で建設された新木津川大橋です。その先には湾岸線の南港大橋、その右手前にはみはや大橋が見えます。新木津川大橋は高さ46メートル、大正区側は三層のループ状のアプローチからできています。この形式では日本一の橋です。歩行者・自転車の木津川渡船は昭和30年から運行しています。

◆ 木津川飛行場跡
 新木津川大橋の奥の大正区側に「大阪木津川尻飛行場」が大正12年に開設されました。日本航空の拠点空港で、当初水上飛行場でしたがすぐに陸上機能をもつようになりました。さらに、昭和4年に「大阪飛行場」として日本初の公共用飛行場となりました。名古屋、東京、福岡、大連、上海へ、年間発着回数8800回、年間旅客1万人が記録されました。昭和14年に伊丹飛行場が開設し、水上機専用の飛行場となりました。現在、中山製鋼所構内には飛行機格納庫が残っています。新木津川大橋北詰には木津川飛行場跡の碑があります。



▲「大正ガイドブック」より▲

◆ GM工場の跡
 さらに西、木津川運河(見えません)の方向には、大阪に設立された日本ゼネラルモーターズの工場のあった場所があります。鶴町1丁目、船町渡船場の北です。月産2000台、シボレー、ビュイック、ポンティアック、オールズモビル、オベルなど、1941年まで15万台が組み立てられました。第二次大戦により操業は停止されました。因みに、株式会社クボタも草創期には大正区で自動車を製造していました。昭和6年には「クボタ・ダットソン」が販売されています。

大阪あそび歩のコースは約2~3km、2~3時間程度を基準として作成されています。